府立枚方なぎさ高等学校
校　　長　　笠井　博

令和６年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

生涯にわたり学習する基盤を培い、自らの個性を生かしながら主体的に課題を解決する力を育み、生徒の可能性を伸長する学校をめざす。
１　急速に変化する社会に対応できる確かな学力を育成し、思考力・判断力・表現力を育み、自己を高める機会を与えることで、個性を伸ばす教育の充実を図る。
２　自ら将来の夢と志を描き、自己の可能性を伸ばすとともに、自らの力で進路を実現し、地域や社会に貢献できる人材の育成をめざす。
３　生徒が安全で安心して高校生活を送れるよう、それぞれの思いや環境・状況の違いを理解し、互いの個性を尊重し、自他の生命や権利を大切にする意識の醸成に努める。

２　中期的目標

「部活動の盛んな進学をめざす総合学科づくり」をスローガンに、生涯にわたり学習する基盤を培い、自分の将来の進路を主体的に描き、自身の可能性を自らの力で積極的に拓きながら、常に高みをめざして自立・自走する人財を育成するとともに、持続可能な社会の創造に向けて共生・協働する人材を育成するため、以下の５点を学校の中期的目標とする。

１　思考力・判断力・表現力など確かな学力を育成するため、教員の授業力向上を図る。
（１）学習指導室、授業力向上委員会を中心として、「授業の質の向上」と「学びの保障」に取り組むとともに、１人１台端末のさらなる活用や自習室の整備を進め、学習の自走化と家庭学習時間の増加を図る。
（２）HR 教室の電子黒板機能付プロジェクタやアクティブラーニングルームを有効活用して、学校全体で ICT 機器を活用したアクティブラーニングやユニバーサルデザインの授業実践をすすめる。
（学校経営推進費　H30　「なぎさスマイルプロジェクト～授業に笑顔を～」　電子黒板機能付き超短焦点プロジェクタ 18 教室　3,402,000 円）
（３）授業アンケートを有効活用するとともに、研究授業や教員相互の授業観察等の活性化を図る。
※生徒向け学校教育自己診断「楽しくて、わかりやすい授業が多い」を毎年引き上げて、令和８年度には 80%以上にする。（R３　63.2%、R４　72.8%、R５　74.3%）
２　夢や希望の実現に向かって主体的に学び努力するキャリアデザイン力を育成するため、さらなる進路指導の充実を図る。
（１）キャリアサポートルームを有効活用して、「10 年後の自分」を考えさせる。
（２）アクティブラーニングルームを有効活用するとともに、「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」、LHR 等で系統的なキャリア教育の実践を進める。
（３）進学講習など授業外の取組みを組織的に行う体制を充実させ、生徒の希望する進路の実現をめざす。
※令和８年度に向けて進路希望実現率 90%以上を維持する。（R３　96.0%、R４　97.4%、R５98.1%）
※難関大学（関関同立・産近佛龍）の合格者を令和８年度には 20 名以上をめざす。（R３　４名、R４　６名、R53 名）
３　基本的な生活習慣を確立させ、社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を育成するため、生徒指導の方法を工夫し、生徒の自主性の伸長を図る。
（１）基本的な生活習慣やマナー指導、感染症の拡大防止について、各分掌が連携して取り組み、安全で安心できる学習環境づくりを行う。
（２）自分の考えを他者に伝え表現するコミュニケーション力を育成するため、HR や各種委員会・生徒会、学校行事のさらなる活性化を図る。
（３）「学びの場」としての部活動への参加を奨励して、目標に向かって努力することの大切さを学ばせる。
（４）地域連携の一層の充実を図り、自主的・積極的に社会に参画する意識を醸成する。
※年間遅刻者数を毎年減少させ、令和８年度には 1000 以下にする。（R３　1275、R４　1231、R５1333）
※生徒向け学校教育自己診断「学校生活は充実している」の令和８年度に向けて肯定的評価 90%以上にする。
（R３　84.8%、R４　89.9%、R５　88.6%）
※部活動加入率を毎年引き上げて、令和８年度には 65%以上にする。（R３　58.7%、R４　60.8%、R５　62.2%）
４　多様な考え方や立場を理解し、他者と協力・協働する社会形成能力を育成するため、人権教育とともに「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。
（１）SNS 利用など今日的な課題に対応した人権教育を推進する。
（２）特別支援教育に関しては、高等学校支援教育力充実事業のサポート校としての取組みを充実させる。
（３）知的障がい生徒自立支援コース設置校として、生活看護実習室を活用して取り組んできたユニバーサルデザインの授業実践をあらゆる教育活動に広げていく。
※生徒向け学校教育自己診断「学校では人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の肯定的評価を毎年引き上げて、令和８年度には 85%以上にする。
（R３　75.4%、R４　78.4%、R５　89.7%）
５　力と熱意を備えた教員と学校組織づくりを進めるとともに、魅力ある総合学科として「部活動の盛んな進学をめざす総合学科」を地域に定着させていく。
（１）高大連携を進めるとともに、特色ある教育課程の編成を行うなど、カリキュラム・マネジメントに努める。
（２）中高連携をさらに進めるなど、広報活動の活性化を図る。
（３）全校一斉退庁日やノークラブデーの定着をはじめ、校務運営の効率化、部活動大阪モデルの具現化により教職員の時間外勤務の削減を図るなど、働き方改革に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 ［令和７年１月実施分］	学校運営協議会からの意見

府立枚方なぎさ高等学校

令和６年度学校教育自己診断　分析

【生徒】
＜全体＞
・全体としては、多くの項目で概ね高い数値。

・全項目で昨年度比プラス
→　多くの項目で大幅に上昇している。

・昨年比で肯定的評価の上昇率が特に高いものは

３：この学校に来てよかった（＋5.2%）

４：この学校の先生は信頼できる（＋4.9%）

５:いろいろと工夫されている授業が多い（　＋5.4%）

６：少人数・習熟度別選択授業は充実感（やりがい）がある（＋6.7%）

７:楽しくてわかりやすい授業が多い　（＋5.8%）

８:学校は授業以外でも学習する機会（講習会・検定など）を提供している　（＋5.5%）

９:授業以外での学習時間は１日平均１時間以上である（＋6.1%）

13:学校生活についての先生の指導は納得できる　（＋5.9%）

17:部活動に積極的に参加している（＋5.8%）

21:学校の施設・設備は充実している（　＋8.6%）

・１：学校生活は充実しているとする生徒は91%（昨年度比＋2.4%）と高く、3,4など学校への満足度、信頼度に関する指標でも高い数値がでている。

・5,6,7,8、21など授業や学習環境への満足度が大幅に上がった。

・17：部活動に積極的に参加しているとする生徒が全学年で60%を超え、平均では65.5%となった。

<各学年>
・長年、懸案である家庭学習時間については年を追うごとに改善の傾向がみられ、今年度40%を超えた（41.8%）。特に３年生では過半数を超えた（52.1%）。

・学年ごとに見た場合、全体として２年生の数値が低い傾向がある（各学年肯定的評価）

３：この学校に来てよかった
（１年/82.4%、２年/77.8%、
３年/88.3%）

【第１回】　７月５日（金）

○　学校経営計画、令和７年度使用教科書について

⇒承認

○　分掌・学年の取組みについて

＜学習指導室＞

・入学倍率に関わらず、学力の平均値は大きく変わっていない。大学進学者、希望者は増加している。進路指導部の取り組みとして、

１年　産社と連携　多様な進路に興味をもつように　理系への興味を喚起
２年　中だるみ防止の取り組み
３年　大学進学　過去最多の希望者数　講習を工夫し産近佛龍へのアプローチ
就職　売り手市場の中で自分がしっかり働ける会社を選べるよう指導
キャリアサポートルームの充実 、科目選択のあり方を検討

＜生活指導室＞

・身だしなみ指導、登校指導について現状報告
遅刻件数減落ち着いてきている。
身だしなみ、盗難防止（ロッカー施錠指導）、課題としては自転車のヘルメット。

・「防災避難訓練」消防署と連携（６分程度で全員避難完了）
「救命救急講習会及び心肺蘇生法実習」（生徒、教員約90名参加）
定期健康診断　学校環境衛生等　実施報告

＜企画広報室＞

・出前授業の依頼は校数、地域とも広がっている。
オープンスクール、説明会、個別相談等実施（昨年度27回）

＜各学年＞学年概要、行事等の取組みについて

【19期生】進路に向け、一人ひとりがしっかりと向き合えている 。
遅刻件数はやや増えているが、欠席が減っている。
大学進学希望者増加に伴い、模試受験者が増えている。　結果を分析し対策を実施

【21期生】学習面、生活面での支援が必要な生徒が例年よりは多い
学習意欲の高い生徒も多い
頑張らないといけない生徒、頑張りたい生徒どちらにもアプローチ

○　質疑応答・意見交換

・朝のSHRは実施したほうがよいのでは、中学校では実施している。朝の読書の後落ち着いて授業開始できている。
→　実施したいが　教員の勤務時間等の問題もある。

・聴力障がいのある生徒がいるとのことだが、合理的配慮については？
→　入学前から聞き取りを行い視覚的支援や座席の配慮、マイクの音等を配慮している。

・自転車のヘルメットは努力義務なので、助成金とかがあるとありがたい。

・開門から閉門（７：00～19：00）は教員付き添い無しで開放できないのか、もう一皮むけるためには何か必要、何ができるのか
→　働き方改革に逆行するが、次の一手魅力づくりはなにか（自習室の拡大、開室時間の延長等）

志願者数の確保と働き方改革の推進が今年の大きなテーマ、遅刻数、進学実績、生徒の様子等はレベルアップしているので、新たな取り組みと両立させ、枚方なぎさ高校の魅力を伝え、志願者確保にもつなげたい。今後の５年にむけて頑張っていきたい。

【第２回】　11月22日（金）

○　保護者からの意見の提出状況について

・申し出なし

○　授業見学を終えて

・2024年３月に設置された電子黒板の活用事例として授業見学を行った。（6:16の横長の画面での授業、画面に直接チョークで書き込むなど）
・ここ数年、授業の様子に落ち着きが感じられ、授業を大切にしている様子がうかがえる。
・進学をめざす総合学科というコンセプトの方向性は間違いではないことも併せて確認することができる状況であった。

○　本年度の取り組みの中間報告について

＜学習指導室＞

・朝の始業前(７:30～８:30)、放課後17時以降(～18:00)自習室利用を考査２週間前から試験的に行った。（まだ利用者は少ないが、学校の雰囲気作りとして効果はあると考えられる）

・進路指導部より11/５現在の進路状況の報告。
(総合型選抜（旧AO入試）、総合学科推薦、指定校推薦での状況を報告)

・公募制推薦入試、大学入学共通テスト、一般入試を受験する生徒数は年々増加傾向。

４：この学校の先生は信頼できる
（１年/83.3%、２年/71.9%、
３年/86.4%）

６：少人数・習熟度別選択授業は充実感（やりがい）が
（１年/86.0%、
２年 80.1%、３年/90.1%）

７:楽しくて、わかりやすい授業が多い
（１年/82.8、％２年/72.9%
３年/85.0）％

13:学校生活についての先生の指導は納得できる
（１年/76.9%、２年/65.2%、
３年/74.6%）

14:先生は悩みや相談ごとにはていねいに応じてくれる
（１年/86.9%、２年/76.9%、
３年/86.9%）

→学習面、生活面、教員との関係性等の多くの項目で２年生の数値が低い、昨年も同様の傾向があった。

【保護者】

・全体としては、多くの項目で概ね高い数値。

・経年変化を見てもほぼ横ばいだが、微減の項目が目立つ

・昨年比で肯定的評価の上昇率が高いものは

５：各教科からは必要な量の課題や宿題が与えられている
（+2.5%）

※昨年の（-5.8%）からやや回復

６：生徒たちは家庭学習に充分な時間を使っている（+3.7%）

→5,6 ともに保護者の学習面への関心の高まりを感じられる

・昨年比で肯定的評価の下落率が高いものは

10：学校は生活指導をしっかりやっている（-4.8%）

15：学校は家庭への連絡を適切に行っている（-3.7%）

→２年連続の下落。情報提供の在り方について再確認の必要あり

17：校内の清掃は行き届いている
（-4.9%）

18：保護者に対する事務室の対応は親切、丁寧である
（-4.4%）

19：家庭では生徒とよく会話する
（-4.3%）

＜生活指導室＞

・遅刻数が減少し、今年度は 1,000 件以下を実現できる可能性がある。

・遅刻０の日、自転車通学マナー、道路交通法改正などに関するポスターを作製、視覚的な情報による啓発活動を行った。

・「学校は学びの場」である生活指導室の方針の定着。

・学校説明会での中学生の保護者、進路指導室などへの来客の方々から挨拶をしっかりしてくれる生徒であるという印象をもっていただいている。

＜企画・広報室＞

・10 月 27 日(日)の第２回学校説明会では約 280 組、560 名の中学生、保護者の参加があった。

・近隣校で日曜日に学校説明会を実施している高校はなく、日曜開催は好評だと確認できた。

＜各学年＞

・各学年、生徒の状況に合わせ取り組みを行っている。

○　質疑応答・意見交換

・クラブ活動と両立という面についてはこの５年間で確実に部活動を頑張る生徒の数が増加傾向である。

・家庭学習の時間確保という点についても、過去の課題であった「家庭学習時間０からの脱却」の兆しが見え始めている。

・教員の働き方改革については、毎週水曜日の一斉退庁日の設定の導入などできる範囲で改革を進めている。
（教職員においては、スクラップ＆ビルドの概念の共通認識が必要である）

・学校としては良い方向に向かっている。部活動が盛んな進学をめざす総合学科というコンセプトも地域に根差しはじめている。次の５年間に向けて新たな広報活動としてキャッチフレーズのマイナーチェンジ、系列の細分化(保育とスポーツに関する系列の新設)など引き続き、学校としての動きをアピールしていくことが必要だと考えられる。

【第３回】　２月 21 日（金）

○　教員の授業、その他の教育活動に係る保護者からの意見の調査審議に関する事項

・現段階では申し出なし

○　令和６年度学校教育自己診断について

・生徒についてはほぼ 80%～90%台。昨年度比全項目プラスとなっている。
部活動については継続率も上がってきていることが見て取れる。
ここ数年で課題となっていた自宅学習時間は年々のび、今年度 40%を越えた。
特に３年生では 50%をこえるなど大きくのびている。

・保護者については、アンケートをオンライン化して以降、回答数が低迷している。
連絡ツールで周知するなど工夫はしている。昨年比 10.9P 上昇したが、回答率は 40%程度。

・教員については全体として授業力向上への意識が高まっていることが伺える。

＜質疑応答・意見交換＞

・学校、子どもにかかわりの少ない保護者には答えにくいので、“わからない”という回答項目が欲しい。
・オンラインだと回答のハードルとともに回答しないハードルも下がる
・教員と生徒の意識の乖離は縮まっているのか？
　→　徐々に縮まっている。学校説明会等で事前に説明することで浸透してきているのではないかと思う。
・現在の生徒心得は特に厳しいわけではないかと思うが
　→　見だしなみについてはこだわって指導している分、他校、中学校に比べれば自由度は低い。
・中学校では授業に関する項目が下がり気味。自由進度学習が増えているせいか？
・小学校も、「落ち着いて授業を受けられている。」の項目が下がった。これも自由進度学習の影響か？質問項目の工夫が必要、高止まり項目で強肯定の部分の推移を見てみるのも１つでは。
・一斉講義型の授業を否定するものではないが、授業評価の質問項目が昔ながらの一斉講義に対応したものだから、現在の教育に対する評価の指標としてふさわしくないのではないか。質問項目を工夫してみては？

○　令和６年度学校経営計画の評価、及び令和７年度学校経営計画について

＜今年度＞

・学校教育自己診断は数値目標的には高い数値が出ている。
・教員の授業力向上（ア）生徒からの授業アンケート評価 3.45 で高い数値で推移
・キャリアデザイン力の育成（ア）（イ）進路希望実現率　96.1%　昨年度比若干減
　→高みをめざして叶わなかった生徒もいたため　実績自体は伸びている
・遅刻数　昨年度 1,333 件　今年度 1,000 件切れるか…

府立枚方なぎさ高等学校

【教職員】

・全体としては、多くの項目で概ね高い数値。

・昨年比で肯定的評価の上昇率が高いものは

9：担当の授業等で自宅学習を促すような指導を工夫して行っている（＋4.3%）

12：本校は生徒指導について生徒の納得が得られるよう努力している（＋6.4%）

14：生徒間の人間関係に留意し、いじめなどには適切に対応している（＋4.0%）

・昨年比で肯定的評価の下落率が高いものは

2：本校の教育活動は、他の学校にない特色がある（-7.9%）

6：本校の少人数授・習熟度別選択授業は生徒の理解度の向上に効果を上げている（-4.5%）

16：本校は部活動の活性化について工夫している（-9.0%）

17：本校は総合的な探求の時間を充実させるよう工夫している（-5.4%）

19：本校は人権教育について適切な指導を行っている（-7.4%）

・教員と生徒の意識の乖離のみられる項目については詳細な分析の必要がある

→昨年度より行っている「遅刻０の日キャンペーン」の効果あり
教員向けキャンペーン等も奏功し、時間外は順調に減ってきてはいる。
一方で、様々な取り組みをするほど教員の負担は増える。働き方改革との整合性をとるのも難しい。

＜次年度＞

これまでの取り組みで成果がでているため、大枠は今年度どおり。数値目標を設定し、来年度取り組む。今回ご指摘をいただいた内容（校肯定評価の推移等）を踏まえていきたい。

・進路希望実現率の分母分子について知りたい。　→　分母は３年生の在籍者数
・未定者は？　→　浪人、将来の夢のため非正規を敢えて選ぶ積極的にフリーターもいる
・各種検定の受験者数とは？　→　英検とパソコン検定等。特に英検の受験者が増えている。
・キャリアサポートルームを活用して「10 年後の自分について考えさせる活動」については、よい取り組みなので継続してほしい。
・「デジタルサイネージを活用して」とあるが具体的には？
→定期テストや就職試験、共通テストまで後何日、という毎日カウントダウンをするなど意識の高揚をはかっている。また、SNS も活用している。中には 650 万回以上再生されたものもある。

○　**＜各室より報告＞**

・指定校推薦以外の方法でもこれまで合格できなかった学校にも合格できる生徒が増えてきた。
・１年生（21 期生）について、19 期生から 21 期生にかけて倍率の低下に伴い D ゾーンが増えているが、１月時点での成績は今までで最高となっている。特に英語の数値が高い。また、入学時に比べ大学進学の希望者が増えており、入学後進学への意識が高まったことがわかる。
・総合型選抜講習の成果が上がっている。他の選抜方法よりも総合型選抜の方が合格可能性の高い大学もあるため、志望校によっては、原則、講習に参加させることも考えている。
・遅刻の件数は年々減っている。今年度目標の年間 1,000 件を切ることはできなかったが、自己の不注意は大きく減っている。
・来年度より芸術表現系列を分化し新たに体育保育系列を創設する。これまで見えにくかった体育や保育を見えやすくした。

＜質疑応答・意見交換＞

・自習室の時間外解放試行について
昨年度の学校運営協議会でもご意見を頂いた時間外の自習室解放を試行している。考査２週間前から（朝７：30～と夕方 18：00 まで）考査中（朝７：30～）それなりに利用者がおり、今後もニーズを確認していきたい。
最近の子は家ではなく、カフェや図書館などで勉強している子も多い。日常と離れて集中できるので自習室の活用はよい。

・制服の多様化についてはどうなっているか。
→　職員にアンケートをとり、先日の職員研修でも意見を聞いた。スカートにネクタイはほぼ異論はないかと思う。多様化について、パーカーや夏のポロシャツの制服化も話題になっている。
・過敏な生徒はカチッとしたブレザーがしんどく、式典のときのみ着用したりしていると聞く。保護者としてはポロシャツの導入もありがたい。制服の多様化はすすめては。
→　男子生徒の制服のオフィスカジュアルスタイルなど、気崩さなくともかっこよく、あるいはかわいく着られる制服へと変えていくのもありなのではという意見も出ている。
・横断幕について、今回横断幕を PTA として作成したが、せっかくの成果なのだから競技名をもっと大きくすべきでは。どの部活動が頑張っているのかわかるほうがいい
・生徒の指導について
人通りの多い職員室の前や廊下で生徒を指導するのはどうなのか。密室はだめだが、オープンな場でなく、衆目を避ける等配慮してほしい。

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R５年度値]	自己評価
確かな学力育成のための教員の授業力の向上	（１）「授業の質の向上」と「学びの保障」、家庭学習時間の増加	（１）ア　・授業力向上委員会及び SNG s 会議を計画的に開催し、「授業の質の向上」と「学びの保障」に取り組むとともに、アクティブラーニングやユニバーサルデザインについての研究を進める。 ・１人１台端末の活用による学習支援を計画的に行い、自主学習の定着とともに家庭学習時間の増加を図る。	（１）ア　・「㊚いろいろ工夫されている授業が多い」肯定的回答率 80%以上を維持する。[79.1%] ・「㊚授業以外での学習時間は１日１時間以上である」前年度比２ﾎﾟｲﾝﾄ増加。[35.7%]	㊚は生徒向け学校教育自己診断 （１）ア・「㊚授業の工夫」 84.8%（5.7ﾎﾟｲﾝﾄ増）（◎） ・「㊚授業以外での学習時間は１日１時間以上である（◎）」 42.4%（６.７ﾎﾟｲﾝﾄ増）（◎） 「授業の質の向上」については、様々な機会を捉えアクティブラーニングやユニバーサルデザインについての研修研究を進めた。自主学習時間の増加は、早い段階からの進路指導部の意識

府立枚方なぎさ高等学校

				付けや自習室の整備に取り組んだ成果である。
		イ　・授業力向上に向けた校内研修を企画し、教員間で「めざす授業」の共有化を図るとともに、「楽しくわかりやすい授業」を実践して生徒の学習習慣の定着を図る。	イ　・「㊚楽しくて、わかりやすい授業が多い」肯定的回答率を前年度比２ﾎﾟｲﾝﾄ向上させる。［74.3%］	イ　・「㊚楽しくてわかりやすい授業」79.7%（5.4ﾎﾟｲﾝﾄ増）（◎） ・教務部主催や授業力向上委員会の企画による授業力向上を目的とした教職員研修を４回実施した。
	（２）ICT 機器の有効活用	（２）教室の電子黒板機能付プロジェクタの活用やデジタル採点の導入などモデル授業者や各教科代表者による研究授業や研究協議を実践する。	（２）前年度の回数以上の ICT 機器活用に関する教職員研修を実施する。［３回］	（２）ICT 機器の活用及びデジタル採点にかかる研修・協議等　５回（〇） ・現在でも多くの授業で ICT 機器が活用されている。今後さらに、有効的な活用にむけて取り組んでいきたい。
	（３）教員の授業力の向上	（３） ア　授業アンケートの振り返りシートを全教員が作成する。 イ　研究授業を学校全体で行うとともに、授業観察シートを作成する。 ウ　近隣地域、小・中学校との交流を活性化する。 ・「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」、学校設定教科・科目などを活用した実践を模索する。	（３） ア　授業アンケートの学校全体の平均値前年度より上昇させる。［3.45］ イ　校内での公開授業、研究授業及び研究協議を実践する。３回以上［３回］ ウ　近隣地域、小・中学校との交流を定着させる。	（３） ア　授業アンケート平均値 3.45 前年度同値で高水準を維持した。（〇） イ　校内での研究授業及び研究協議（５回）の実施回数は増した。（〇） ウ　小学校と地域創造系列における授業交流を推進させた。２回（〇） ・地域創造系列等における「総合的な探究の時間」の取組みとして、各事業所等との連携・協力して、探究活動を実践した。
キャリアデザイン力育成のための進路指導の充実	（１）アクティブラーニングルームやキャリアサポートルームを有効活用したキャリア教育の実践	（１） ア　進学説明会や進路面談、模擬面接等をアクティブラーニングルーム及びキャリアサポートルームで開催するなど有効に活用する。 イ　デジタルサイネージを有効に活用し、進路意識の向上を図る。	（１） ア　進路希望実現率の前年度並み数値を維持する。［98.1%］ イ　デジタルサイネージを活用してタイムリーな情報を提供する。	（１） アイ　進路希望実現率は 96.1%（2.0ﾎﾟｲﾝﾄ減）前年度並み数値（〇） ・より高い目標に向かってチャレンジした結果希望実現率は下がったが進路実績は大きく向上した。 ・受験情報などタイムリーに発信するとともに、進路指導計画「なぎさ」の充実を図った。
	（２）系統的なキャリア教育の実践	２） ア　「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」、LHR 等を通じて、３年間トータルの系統的なキャリア教育活動を充実させる。 ・進路決定までの生徒支援の仕組みとして、進路選択や働くことの意味、将来を見据えた科目選択などについて考え、自らの今と将来を凝視していく機会をつくる。	（２） ア　「㊚進路実現に関する指導は適切に行われている」肯定的回答率を前年度より向上させる。［89.7%］	（２） ア　「㊚進路実現に関する指導は適切に行われている」92.8%（3.1ﾎﾟｲﾝﾄ増）（◎） ・放課後の積極的な自主的学習の習慣化を狙い、自習室として食堂を新たに整備・開放し、キャリアサポートルーム、会議室、図書室と併用した。 ・「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」などを活用して、学年進行で自らの進路、職業観、生き方に対する考えを深めさせた。
	（３）進学講習の充実による希望する進路の実現	イ　・大学や専門学校等と協力した説明会、学校見学及び体験入学を実施し、高校卒業後のより高いステージでの「学び」をイメージさせる。 ウ　英検やワープロ検定等、各種検定の受験、資格取得の促進。 エ　学習支援クラウドサービスの活用及び入学して早い時期の宿泊研修の導入により、進路実現に向けた学習の自走化を進め、「授業外学習時間０」からの脱却を図る。 （３） ア　学校設定教科・科目「軌跡」及び「深学」を工夫・改善するとともに、組織的な進学講習の体制づくりを進める。 イ　一つ上の高みをめざす進路選定を勧奨しつつ、生徒の進路希望の実現を支援する。	イ　大学との連携活動の充実　前年度比５ﾎﾟｲﾝﾄ増加［95 回］ ウ　各種検定・資格受験者、取得者数の昨年度以上の増加［63 名］ エ　「㊚授業以外での学習時間は１日約１時間以上である」を前年度比２ﾎﾟｲﾝﾄ増加させる。［35.7%］ （３） ア　「㊚学校は授業以外でも学習する機会（講習会・検定など）を提供している」肯定的回答率を前年度より向上させる。［76.9%］ イ　難関大学（関関同立・産近佛龍）の合格者数を前年度より増加させる。［５名］	イ　大学との連携活動回数 132 回（◎） ウ　各種検定、資格取得者数 132 名（◎） エ　「㊚授業以外での学習時間は１日約１時間以上である」［42.4%］（6.7ﾎﾟｲﾝﾄ増）（◎） ・「なぎさ WakeUpCamp」（宿泊研修）の実施や学習支援クラウドサービスの有効活用により自学自習の習慣作りを進め、自走化がすすんだ。また、「勉強会」の参加者も増えた。 （３） ア　「㊚学校は授業以外でも学習する機会（講習会・検定など）を提供している」82.6%（5.7ﾎﾟｲﾝﾄ増）（◎） イ　難関大学（関関同立・産近佛龍）の合格者　15 名（◎） ・希望進路実現に向けて、「学びの自走化」をさらに進める必要がある。

府立枚方なぎさ高等学校

社会人基礎力育成のための生徒指導の徹底と生徒の自主性の伸長	（１）生徒の規範意識や自立心の育成と安心・安全な学校環境づくり	（１） ア　遅刻指導や身だしなみ指導、感染症拡大防止対策及びその指導、を粘り強く行い、生徒が安心・安全な学校生活を過ごせるよう、基本的な生活習慣を定着させる。	（１） ア　・年間遅刻者数の前年より減少させる。　［1333 回］ ・「㊐学校生活についての先生の指導は納得できる」肯定的回答率を前年度より向上させる。［66.3%］	（１） ア　・年間遅刻者数は 1021 回（◎） 遅刻ゼロキャンペーン、朝点呼などの取組みにより遅刻数の大幅減ができた。 ・「㊏学校生活についての先生の指導は納得できる」 72.5%（6.2 ﾎﾟｲﾝﾄ増）（◎）
		イ　学年連携会議等で、生徒指導や行事活動など教員間の情報共有と調整を図る。	イ　・「㊐先生は悩みや相談ごとには丁寧に応じてくれる」肯定的回答率を前年度より向上させる。［82.0%］	イ　・「㊏先生は悩みや相談ごとには丁寧に応じてくれる」 83.9%（1.9 ﾎﾟｲﾝﾄ増）（○）
	（２）リーダーの養成及び HR や委員会・生徒会、学校行事の更なる活性化	（２）リーダー研修を実施し、生徒会や各種委員会が中心となって、体育祭や文化祭などの行事活動を活性化させる。	（２） ・「㊏学校行事や HR 活動には皆が楽しく参加している」肯定的回答率を前年度より向上させる。［87.0%］ ・生徒会及び部活動員を対象としたリーダー研修を実施する。	（２） ・「㊏学校行事や HR 活動には皆が楽しく参加している」 91.6%（4.5 ﾎﾟｲﾝﾄ増）（◎） ・生徒会及び部活動員を運営委員とした行事活動を維持した。また、部活動のキャプテン会議の定期開催や学年のリーダー研修を実施した。（○）
	（３）「学びの場」としての部活動の活性化	（３）部活動紹介や体験入部の方法等を工夫することにより、入学時の入部率を上げ、部活動の活性化を図る。	（３）部活動加入率の前年度比２ﾎﾟｲﾝﾄ増加させる。［62.2%］	（３）部活動加入率は 64.8% （2.6 ﾎﾟｲﾝﾄ増）（◎）
	（４）地域連携のさらなる充実	（４）「総合的な探究の時間」の取組みや生徒会及び部活動など、保護者や近隣の小中学校、磯島地区コミュニティ協議会とのさらなる連携をすすめる。	（４）「総合的な探究の時間」の取組みや生徒会・部活動を通じて、ボランティア活動や各種イベントなどへ自主的・積極的に参画させる。	（４）地域創造系列における「総合的な探究の時間」の取組みとして、各事業所等との連携、生徒会や部活動におけるボランティア活動や各種イベントへの参加・協力など 24 件、地域交流活動に積極的に参加することができた。（◎）
社会人形成能力を育成するための人権教育や特別支援教育の充実	（１）高校３年間を通した人権教育の推進	（１） ア　・入学年次の「産業社会と人間」を同和教育・人権教育の観点から組み立てるなど、SNS 等の今日的課題にも対応した３年間トータルの人権教育を行う。 ・３か年を通じた同和教育・人権教育がより系統的に実施できるよう、人権をテーマとした教職員研修を計画的に実施する。 イ　アンケート等により把握したいじめなどの事象に迅速に対応する。	（１） ア　「㊏学校では人権の大切さについて学ぶ機会が多い」肯定的回答率 80%以上を維持する。　［89.7%］ イ　「㊏学校は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定的回答率 80%以上を維持する。［83.7%］	（１） ア　「㊏人権の大切さを学ぶ機会」 92.1%（2.4 ﾎﾟｲﾝﾄ増）（◎） イ　「㊏学校は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」 87.4%（3.7 ﾎﾟｲﾝﾄ増）（◎） ・アンケート等により把握したいじめなどの事象に迅速なチーム対応ができた。
	（２）高等学校支援教育力充実事業のサポート校としての取組みの充実	（２）生活看護実習室を活用して、インクルーシブ教育をさらに進めるとともに、支援教育サポート校としての取組みを充実させる。	（２）訪問・来校相談、研修・講演回数の前年度回数の維持。 ［訪問・来校（電話）相談 28 件、研修・講演３回］	（２）支援教育サポート校として役割を果たした。訪問・来校（電話）相談　25 件、研修・講演　４回（○） 高等学校等の訪問事業ではないが、地域の民間企業からの訪問もあり昨年度並みの実績を残した。
	（３）ユニバーサルデザインの授業実践の活性化	（３） ・生活看護実習室を活用して、ユニバーサルデザインの授業実践に取り組み、「ともに学び、ともに育つ」教育活動をさらに推進する。 ・授業力向上と授業改善を目的とした教職員研修を実施する。	（３） ・「㊏この学校の生徒たちの関係はとてもよい」肯定的回答率 80%以上を維持する。［84.2%］	（３）「㊏この学校の生徒たちの関係はとてもよい」86.9%（2.7 ﾎﾟｲﾝﾄ増）（◎） ・障がい者教育に関する人権講演の実施など「ともに学び、ともに育つ」教育活動を推進した ・授業力向上委員会が主催してユニバーサルデザインの授業実践に関する教職員研修を実施した。
魅力ある総合学科づくり	（１）特色ある教育課程の編成を行うなど、カリキュラム・マネジメントに力を入れる。	（１） ア　・「SNG s（持続可能な枚方なぎさの目標）会議」や教職員研修で、新カリキュラムにおける課題を整理し、引き続き研究を進め、５つの系列の特長をつくり出す。 ・「観点別学習の評価」に関する教職員研修を企画し、工夫と充実を図る。 イ　・デジタル採点システムの活用に向けて校内整備を進める。	（１） アイ　授業力向上委員会を中心に課題を整理し、「観点別学習の評価の検証」やデジタル採点に関する教職員研修を２回実施する。 「㊏この学校には他の学校にない特色がある」肯定的回答率 80%以上とする。　［79.1%］	1） アイ　障がいのある生徒への対応やデジタル採点システムの活用に向けての教職員研修を実施し、校内整備を進めた。３回（◎） 「㊐この学校には他の学校にない特色がある」80.1%（1.0 ﾎﾟｲﾝﾄ増）（○）
	（２）「魅力ある総合学科」の取組	（２） ア　学校説明会の実施形態と内容、開催時期、回	（２） ア　集合型及びオンライン学校説明会	（２）

府立枚方なぎさ高等学校

	みを情報発信するなど、広報活動に力を入れる。	数を工夫し、昨年度に引き続き、集合型説明会及びオンライン説明会を開催するとともに、中学校へ出前授業や説明会、訪問など中学校との連携を活発に行う。	出前説明会と個別相談会を併せて20回以上開催する［27回］ ・令和７年度入試の志願倍率 1.03倍以上を維持する［1.03倍］	ア　・校内外における学校説明会及び個別相談会を４月から平均月一回以上週休日に実施、加えてオープンスクールによる説明会や個別相談会を実施した。27回（◎） ・令和７年度入試の志願倍率 （0.86倍）（△） 目標に0.17ポイント届かなかったが、多くの府立学校が定員割れをする現状において、200名を超えた。
		イ　PTA等と協力して、保護者に学校行事に積極的に参加してもらうなど、保護者との信頼・協力関係をさらに進める。	イ　保護者向け学校教育自己診断の提出率の向上［28.4%］	イ　保護者向け学校教育自己診断の提出率39.3%（10.9ポイント増）（◎）
		ウ　学校情報を積極的に発信するとともに、よりタイムリーな情報発信ができるよう工夫する。	ウ　学校教育自己診断「学校は教育情報について公開・提供の努力をしている」　肯定的回答率 85%以上とする。　［84.0%］	ウ　「㋐学校は教育情報について公開・提供の努力をしている」 80.6%（3.6ポイント減）（△）
	（３）全校一斉退庁日やノークラブデーの明確化等により教職員の時間外勤務の削減を図る。	（３）校務運営の効率化や業務分担の工夫により教職員の負担軽減を進めるとともに、全校一斉退庁日やノークラブデーの実施及び部活動方針の遵守等により教職員の時間外勤務の削減をめざす。	（３）教職員の一人当たり時間外勤務時間数を前年度より削減する。 ［約32時間］	（３）教職員の一人当たり時間外勤務時間数は約29時間（◎） 教員の働き方改革については、部活動指導の効率化に加え、毎週水曜日の一斉退庁日、17時以降の留守電対応導入、職員会議等でのペーパーレス化等10項目についての対応が定着しつつあり、昨年比３時間の減少となった。教職員の働き方改革の意識が進んだと考えられる。引き続き時間外勤務の削減に取り組んでいく。